

静岡市環境大学2018 講座報告 15日目

演題：南アルプスの成り立ちと自然環境

静岡大学 名誉教授 増澤武弘様

場所：しずもーる沼上3F研修室

日時：平成30年12月15日（土）9時15分から10時30分まで



写真：荒川前岳南東カールの岩石氷河

講義のポイント

要点1：南アルプスの特徴

- 3000m以上の山岳がたくさんある。
- 日本の高山帯の中で最も調査研究がなされていない。
- 日本の高山帯で最も南に位置していて高山植物も氷河地形も分布の南限となっている。
- 北極域と共通する高山植物が生育していて、最も南に存在している。そのため気候変動の影響を受けやすい。

要点2：ユネスコエコパークとは

- ユネスコエコパーク＝生物圏保護区（人間と生物圏計画に基づいて成立した国際的な指定保護区の名称）
- 生物および文化的多様性の保全と、経済・社会開発の両立を試みる場所→自然の貴重さよりもどのように自然を保全していくかが重要である。
- 静岡県では静岡市(井川以北)と川根本町全域がユネスコエコパークである。

要点3：高山植物群落

- 荒川岳付近では南アルプスでも有数のお花畑があり、150種以上もの高山植物が生育している。
- 荒川岳にはカール(氷河地形) が3つある。カール周辺カール内の植生は①ハイマツ群落②高山荒原植物群落③低茎草本植物群落④高茎草本植物群落⑤カール底植物群落⑥カール底荒原植物群落⑦矮性低木群落の7つに分類できる。
- 低茎草本植物と高茎草本植物群落は「お花畑」と呼ばれる高山植物の草原である。

受講生の感想

- ★南アルプスの自然は2万年前の最終氷河の自然が今なお残っていることにおどろいた。また南アルプスの自然について具体的に知ることができ非常に有意義であった。
- ★もっとゆっくりたくさんのお話を聞きたかった。静岡市民が知るべき内容だと思う。